

公益財団法人SOMPO環境財団

2019年度事業報告

I 事業の概要

環境財団の4つの事業

1. 人材育成事業～CSOラーニング制度、CSOによる人材育成事業等への助成
2. 啓発普及事業～市民のための環境公開講座、各種シンポジウム・研究会への協賛
3. 環境保全プロジェクト助成
4. 学術研究助成

事業のあらまきは次のとおりです。

1. 環境保全活動に活躍する人材の育成支援（事業予算計 3,093万円）

(1) 「CSOラーニング制度」の実施（予算 2,352万円）

大学生・大学院生に対する環境CSOでの活動による人材育成、及びCSOに対する支援を目的とした本プログラムは本年度で20年目となりました。2019年6月～2020年1月末まで8ヶ月間のインターン活動をする学生を公募し、全国4地区合計40のCSO団体に58名を派遣しました。

地区	応募者数		合格者数		修了者数	
関東	58名	(前年64名)	32名	(前年35名)	30名	(前年33名)
関西	15名	(前年21名)	11名	(前年13名)	10名	(前年10名)
愛知	10名	(前年16名)	8名	(前年8名)	8名	(前年7名)
宮城	9名	(前年7名)	7名	(前年5名)	7名	(前年5名)
合計	92名	(前年108名)	58名	(前年61名)	55名	(前年55名)

※修了者とは100時間以上の活動者を言う

本年度も「一人ひとりがCSOの理念を理解した上で、派遣先の活動をしっかりと学び、さらにそれらを地区ごとに共有してお互いの経験を深めていく」という本制度の基本に沿って運営しました。

8月に全地区のラーニング生・チューターが一堂に会する全国合宿を実施しました。今後のインターンシップ活動を充実させるために、互いにインターン活動の状況を共有し、ディスカッション、今後の目標設定などを行いました。そして全国ベースでの学生同士の「繋がり」を深めました。財団二宮理事長からは、「誰一人取り残さないSDGs～皆さんへの期待～」というタイトルでメッセージを伝えました。また社外講師にはエシカル協会代表理事で当財団の評議員でもある末吉里花氏を迎え、「身の回りから世界とのつながりを考える」と題して、エシカル消費についての講義とグループワークショップを開催しました。またCSOからのメッセージとして、ラーニング生受け入れ団体であるコンサーベーション・インターナショナルの日比保史氏からラーニング生に対する期待や成長への課題について講演をいただきました。

本年度も地区の学生の繋がりを強化する目的で各地区ごとに「自主プロジェクト」を実施し、8月の合宿時に各地区でテーマを決めて、1月末まで独自に調査・活動を行いました。インターン活動が終了した2月には、ラーニング生それぞれが、インターンに参加したことで得られた自分の経験・学び・課題などをまとめた「修了レポート」を作成しました。

9月には日本・インドネシアのインターン生を繋いだTV会議を実施し、それぞれの国の環境問題や、若者はどう取り組むべきかなど意見交換を行いました。参加した学生は「インドネシアの学生もとても積極的に活動している」など刺激を受けていました。

また、NPO法人アサザ基金と地元の農家との協働により、耕作放棄地を再生した田んぼでのコメ作りを行いました。本年度で9回目となり、現役のラーニング生やOB・OGも参加して、地域に根付いた循環型社会づくりを体験する機会にしました。

CSO名	人数
(関東地区)	
1 アサザ基金	1
2 ECOPLUS	1
3 オイスカ	2
4 オーシャンファミリー	2
5 環境エネルギー政策研究所	2
6 環境文明21	1
7 共存の森ネットワーク	2
8 国際自然大学校	1
9 コンサベーション・インターナショナル・ジャパン	2
10 GDP Worldwide Japan	1
11 自然環境復元協会	1
12 JUON(樹恩)NETWORK	2
13 樹木・環境ネットワーク協会	2
14 新宿環境活動ネット	2
15 高木仁三郎市民科学基金	1
16 WWFジャパン	1
17 日本エコツーリズムセンター	1
18 日本環境教育フォーラム	2
19 日本自然保護協会	2
20 パブリックリソース財団	1
21 ボルネオ保全トラスト・ジャパン	1
22 森づくりフォーラム	1
関東地区計	32

CSO名	人数
(関西地区)	
1 愛のまちエコ倶楽部	1
2 大阪自然環境保全協会	1
3 環境市民	1
4 気候ネットワーク	2
5 こども環境活動支援協会	2
6 地球環境市民会議	2
7 日本ウミガメ協議会	1
8 びわこ豊穡の郷	1
関西地区計	11
(愛知地区)	
1 アジア保健研修所	1
2 環境省中部環境パートナーシップオフィス	1
3 オイスカ中部研修センター	3
4 藤前干潟を守る会	3
愛知地区計	8
(宮城地区)	
1 オイスカ名取事務所	1
2 環境会議所東北	1
3 冒険あそび場-せんだい・みやぎネットワー	1
4 みやぎ・環境とくらし・ネットワーク	2
5 森のようちえん 虹の森	1
6 杜の伝言板ゆるる	1
宮城地区計	7
総合計	58

過去からの申込者数は72名(2017)→108名(2018)→92名(2019)と推移しています。直近の申込採用倍率は、全体では1.6倍となりますが、関東地区に申込者が集中する傾向があるため、今後も倍率の低い関東以外の地区についても大学教務部、ボランティアセンター、大学教授などに個別に連絡して制度のPRを行うなど募集を強化してまいります。

CSOラーニング制度の卒業生は本年度が55名で累計1,124名となりました。財団では各地区で自主的なOB・OG会が開催されるよう働きかけを行っていますが、本年度新たに関西、愛知で自主OB・OG会が開催されました。今後も他地区での開催の経済的支援やメールなどで開催情報の提供を行いながら、将来に向けたOB・OGの「繋がり」の強化を図っていきます。

一点大変残念な報告もあります。2020年2月以降に日本でも急速に感染が拡大した新型コロナウイルスの影響により、毎年3月に実施している第2回全国合宿、修了式を中止せざるを得ませんでした。例年であればこの修了式において、各学生の活動の内容や、地区別にグループで取り組んだ自主プロジェクトの内容等も併せて発表することとしています。学生もとても楽しみにしていたイベントであったことから、その開催ができなかったことは本当に残念です。

(インドネシアでの活動)

2019年にスタートしたインドネシアでのCSOラーニング制度「NGO Learning Internship Program in Indonesia」では、2019年2月から8か月間、20名の学生がジャカルタ近郊のNGOでインターンを行いました。参加学生は日本と同様にNGOでのインターン活動を経験するほか、定例会、合宿を通じて同期の仲間との交流・連携を深めました。

2019年10月31日にインドネシア・ジャカルタにおいて、NGO関係者、メディア等約50名が参加して第1期学生の修了式を開催しました。ドロップアウトした1名を除く19名が参加し、財団西脇専務理事より一人ひとりに修了証を授与しました。

第2期生については、220名を超える応募があり、そこから選抜した20名が、今年2月4日のキックオフ式典を皮切りに9つの現地NGO団体でインターン活動をスタートしています。ただし、日本と同様にインドネシアでも新型コロナウイルスは急速に感染拡大しており、現地における今年のラーニング活動への影響が懸念されています。

インドネシアNGO・参加学生数 (2020年2月～)

	NGO名	人数
1	Asosiasi Bank Benih Dan Teknologi Tani Indonesia (AB2TI)	2
2	Benua Hijjau	2
3	Borneo Orangutan Survival Foundation	3
4	Burung Indonesia (Birdlife International Indonesia)	2
5	Conservation International Indonesia	1
6	DeTara Foundation	2
7	Indonesia Solid Waste Association (InSWA)	2
8	Jaringan Kerja Pemetaan Partisipatif (JKPP)	3
9	KEHATI	3
	インドネシア計	20

(2) CSOによる人材育成事業等への助成(予算 100万円)

(単位:万円)

	団体名	プロジェクト名	実績
1	日本環境教育フォーラム	清里ミーティング2019「正解がない問いと共に生きる時代の人づくり」	20
2	東京ボランティア・市民活動センター	市民社会をつくるボランタリーフォーラムTOKYO2020	3
3	全国大学生環境活動コンテスト実行委員会	第17回全国大学生環境活動コンテスト(ecocon2019)	30
		合計	53

2. 環境保全に関する情報の収集及び提供並びに啓発普及(事業予算計 1,286万円)

(1) 「市民のための環境公開講座」の開催(予算 660万円)

当財団と公益社団法人日本環境教育フォーラム・損害保険ジャパン株式会社(旧損害保険ジャパン日本興亜株式会社)の三者共催にて開講している本講座は、本年度で27年目を迎えました。本年度の講座も2018年度と同様に通年講座を柱としながら、環境行動の実践を前提とした特別講座を企画・実施しました。

通年講座のテーマは「パート1:人も生き物も豊かになる水の惑星」、「パート2:豊かな生活と環境の共生」、「パート3:伝える・つなげる仕事」とし、昨年度と同様に各パート3回、合計9回の通年講座と特別講座を開催しました。

本年度の通年講座の年間の延べ受講者総数は1,150名(前年1,193名)となり、43名の減少となりました。要因としては一般参加者が大きく減少(マイナス184名)しています。昨年大きく減少したグループ社員参加者は増加(プラス61名)しています。今後は一般参加者の増加にむけた広報活動を充実させていきます。

「認識から行動へ」をテーマに掲げている中、そのテーマを講師にも説明して働きかけており、受講後アンケートにある項目の「行動したい」の割合は増加(過去3年で62%→75%→79%)しています。また「行動したい人の割合が50%以上である講座数」が2016年度には2講座だったのに対し、2017、2018、2019年度では9講座全てが50%以上になるなど、働きかけの成果が出てきています。

また、本年度も若年層(10~30代)の集客を意識してテーマや講師を検討し、また若年層に向けてPRをしたことにより、申込者数は29名増加し、若年層の割合も年々増加してきています。(過去3年で27%→28%→36%)。次年度も引き続き「認識から行動へ」を motto に若者の行動につながる講座を運営していきます。

実践性を重視した、特別講座については、本年度は通年講座の講師でもある国立環境研究所の

五箇公一氏を招いてフィールドワークを実施しました。新宿中央公園において昆虫採集と写生講座を行い、小学生から大人まで23名が参加し、満足度、わかりやすさとも4.9（5点満点）と高い評価を得ました。

北九州市と損保ジャパン社（旧損保ジャパン日本興亜社）の環境・SDGs連携協定に協賛して、2019年12月に北九州市でも市民のための環境公開講座を開催しました。約100名の参加者に対して、新渡戸文化小中学校・高等学校教諭、教育デザイナーの山藤旅聞氏により「SDGsを『知る』から『行動する』への教育デザイン」として講演をいただきました。

<受講者の状況>

2019年度	パート1	パート2	パート3	特別講座①	北九州講座		
申込者数	218名	231名	246名	23名	100名	通年講座参加者	1,150名
延べ参加者数 (各パート3回実施)	394名	346名	410名	23名	100名	年間延べ参加者	1,273名
2018年度	パート1	パート2	パート3	特別講座①	25周年記念		
申込者数	214名	223名	233名	25名	222名	通年講座参加者	1,193名
延べ参加者数 (各パート3回実施)	460名	379名	354名	22名	200名	年間延べ参加者	1,415名
2017年度	パート1	パート2	パート3	特別講座①	特別講座②		
申込者数	202名	233名	245名	20名	30名	通年講座参加者	1,382名
延べ参加者数 (各パート3回実施)	404名	497名	481名	20名	27名	年間延べ参加者	1,429名

<年代別申込者数・割合>

年齢	2017年度		2018年度		2019年度	
	合計	%	合計	%	合計	%
10代	10	3.0	14	4.5	25	7.6
20代	45	13.4	40	12.7	59	17.9
30代	36	10.7	35	11.1	34	10.3
(30代以下計)	91	27.0	89	28.3	118	35.8
40代	58	17.2	43	13.7	51	15.5
50代	62	18.4	51	16.2	74	22.4
60代	90	26.7	72	22.9	49	14.8
70代以上	31	9.2	56	17.8	36	10.9
不明	5	1.5	3	1.0	2	0.6
合計	337	100.0	314	100.0	330	100.0

<通年講座の内容>

パート1. 人も生き物も豊かになる水の惑星

* 敬称略

	テーマ	講師	
1	2019年7月24日 生物多様性と私たちの生活	五箇 公一	国立環境研究所 生態リスク対策室室長
2	2019年7月31日 自然への扉を開く、アクアマリンふくしま	古川 健	(公財)ふくしま海洋科学館 統括学芸員
3	2019年8月7日 「サンゴに優しい日焼け止め」を創った理由 ～サステイナブルなツーリズムを考える～	呉屋 由希乃	社会起業家・GLE LLC. 代表

パート2. 豊かな生活と環境の共生

	テーマ	講師	
1	2019年9月18日 食品ロスに新たな価値を	高橋 巧一	(株)日本フードエコロジーセンター代表取締役
2	2019年9月25日 イノベーションは辺境から ～地産地消型エネルギーから電子マネーまで～	合田 真	日本植物燃料(株)代表取締役
3	2019年10月2日 地球をケアする”コスメティックレボリューション”	窪田 とも子	(株)ラッシュジャパン アースケアスーパーバイザー

パート3. 伝える・つなげる仕事

	テーマ	講師	
1	2019年11月11日 マシガンズ滝沢と考えるゴミ問題	滝沢 秀一	芸人
2	2019年11月18日 メディアが考えるSDGsの自分ごと化とメディアの役割	木幡 美子 関 龍彦	(株)フジテレビジョンCSR推進室長 講談社FRaU編集長兼プロデューサー
3	2019年11月25日 SDGsのコミュニケーション	石田 一郎	(株)朝日広告社 取締役上席執行役員

<特別講座の内容>

実施日・場所	テーマ	講師
2019年8月24日 新宿中央公園	国立環境研究所生態リスク対策室長 五箇公一氏によるワークショップ	国立環境研究所 生態リスク対策室室長 五箇 公一

<北九州市における市民のための環境公開講座>

実施日・場所	テーマ	講師
2019年12月21日 北九州市 商工貿易会館 ホール	SDGsを「知る」から「行動する」への 教育デザイン	新渡戸文化小中学校・高等学校教諭 山藤旅間

(2) 各種シンポジウム・研究会への協賛（予算100万円）

環境問題の普及・啓発活動に対し6件（74万円）を助成しました。

（単位：万円）

	団体名	プロジェクト名	実績
1	棚田学会	2019年度棚田学会シンポジウム	10
2	新宿環境活動ネット	2019年度新宿区『みどりの小道』環境日記コンテスト	11
3	天体と音楽実行委員会	「天体と音楽」をテーマとした科学・音楽コミュニケーション～地球を知ろう～	10
4	環境文明21	2019年度経営者「環境力」大賞	10
5	地球温暖化防止全国ネット	脱炭素チャレンジカップ2020	30
6	大阪ボランティア協会	ボランティア・NPO・市民活動年表	3
		合計	74

3. 環境保全のための活動に従事する団体及び個人に対する助成
（事業予算計317万円）

(1) 「環境保全プロジェクト助成」(予算216万円)

環境保全に取り組むCSOの活動を支援するため、毎年実施しており、2019年度で17回目となります。台風の影響で関西地区での募集説明会が開かれなかったこともあり、応募数が2018年度の58件から46件に減少しました。12月4日開催の認定委員会において10件を選定し、合計193万円を助成しました。

環境保全プロジェクト助成

単位：万円

No.	団体名	所在地	プロジェクト名	実績
1	笹目川の環境を守る会	埼玉県	笹目川の水辺環境保全事業	13
2	ゲンジ萤とカジカ蛙愛護会	山形県	萤の文化を育むプロジェクト	20
3	愛知守山自然の会	愛知県	マメナシなどの絶滅危惧種の保全・保護・調査	20
4	NPO法人 Peace&Nature	兵庫県	Nature School Project 2019	20
5	チーム2°Cおおいた協議会	大分県	アースデイおおいた2020	20
6	たろやま会	千葉県	自然は素晴らしい、みんなの里山曰たろやまの郷～に行こう	20
7	NPO法人 SoELa	神奈川県	カードゲーム「マイアース」を利用した子供向け地球環境啓発活動の実施	20
8	海辺工房ひとで	静岡県	発見しよう、海の生きものの素敵！	20
9	NPO法人 齋田台の生態系を守る会	茨城県	つくば駅からすぐそこ、裏の湧水群を知っていますか？	20
10	上関の自然を守る会	山口県	上関の自然を未来へ	20
			助成金合計	193

4. 環境保全に係わる学術研究に対する助成（事業予算計330万円）

(1) 学術研究助成（予算160万円）

2018年度に引き続き、個別に大学へアプローチするなどPRを行い、応募数は22件となりました。（前年24件より微減）

7月26日開催の選考委員会において5件を選定し助成しました。過去からの累計では92名に助成し、うち62名が博士号取得に至りました。

（単位：万円）

申請者	所属大学院名	研究テーマ	実績
1 呂 冠宇	早稲田大学 経済学研究科 有村俊秀教授研究室	Has FDI Expanded Environmental Pollution in China?	30
2 豆野 皓太	北海道大学大学院 農学院 農学専攻 環境フロンティアコース 森林・緑地管理学ユニット 森林政策学研究室	ナッジに基づいた生物多様性保全アプローチの効果検証	30
3 加反 真帆	京都大学 アジア・アフリカ地域研究研究科 東南アジア地域研究専攻 地域変動論講座	インドネシア大規模泥炭火災地域における住民の生存戦略 —持続的泥炭管理の蹉跎を超えて—	30
4 神田 和可子	聖心女子大学大学院 文学研究科 人間科学専攻 「教育研究」領域 永田佳之研究室	「ESDの変容的学習における情動的な学び —初等中等教育における気候変動に焦点を当てて—」	30
5 芳賀 智宏	大阪大学大学院 工学研究科 環境・エネルギー工学専攻 地球循環共生工学領域	人口減少期の社会・生態システムにおける 生態系管理の政策介入を対象とした包括的シナリオ分析	30
助成金合計			150

(2) 環境問題研究会

財団における研究会開催の意義やあり方の検討を行ない、本年度は実施しませんでした。新規研究の実施については実施の有無を含め、次年度以降に引き続き検討していきます。

5. その他の事業

①「脱炭素チャレンジカップ2020」(旧低炭素杯)への協力

次世代に向けた脱炭素社会を構築するための、全国各地から選ばれた取り組みを共有し顕彰する「脱炭素チャレンジカップ2020」(主催:地球温暖化防止全国ネット)への協力を行いました。事務局長が審査委員として参画し、「SOMPO環境財団賞」として東京農業大学農学部の「エネルギー作物のエリアンサスの栽培・利用システムの構築と普及」の取り組みを表彰しました。

②財団活動の外部への発信

財団活動の外部発信のため、本年度も「環境財団ニュース」の発行を行いました。3月までに第10号から第12号を発行し、行政機関、CSO、学生、関係者等に送付しています。今後も定期的に情報発信ツールとして活用してまいります。

また、2019年度も財団ブログを発信し、CSOラーニングの様子、市民のための環境公開講座の内容等、適宜最新の活動情報を掲示しています。

6. その他の特記事項

①財団名称の変更

先の評議員会、理事会でご承認いただいた通り、2020年1月1日付で財団の名称を「公益財団法人損保ジャパン日本興亜環境財団」から「公益財団法人SOMPO環境財団」へ変更いたしました。

②内閣府への届出

2019年6月21日、2018年度の事業報告等の提出を行ないました。

2019年7月17日、評議員、理事の変更の届け出を行いました。

2020年1月17日、財団名称の変更の届出を行いました。

2020年3月19日、2020年度の事業計画の提出を行いました。

③内閣府定期立入検査について

2019年11月27日、公益法人認定法に基づく定期立入検査を受検しました。指摘事項はありませんでした。

II 庶務の概要（2019年4月1日～2020年3月31日）

1. 役員に関する事項

役員等の氏名は次の通りです。（常勤者に「常勤」表示） *2020年3月31日現在（50音順）

役職	氏名	備考
理事長	二宮 雅也	損害保険ジャパン日本興亜株式会社 取締役会長
専務理事（常勤）	西脇 芳和	公益財団法人SOMPO環境財団専務理事
理事	鮎川 ゆりか	千葉商科大学 名誉教授
理事	伊東 俊太郎	東京大学 名誉教授
理事	岡島 成行	公益社団法人日本環境教育フォーラム 会長
理事	小島 麗逸	大東文化大学 名誉教授
理事	炭谷 茂	社会福祉法人恩賜財団済生会 理事長
理事	森嶋 昭夫	名古屋大学 名誉教授・弁護士
監事	斎藤 昭一	公認会計士
監事	新里 智弘	公認会計士
評議員	飯豊 聡	損害保険ジャパン日本興亜株式会社取締役専務執行役員
評議員	井田 徹治	共同通信社 編集委員・論説委員
評議員	大塚 義治	日本赤十字社 副社長
評議員	加藤 三郎	環境文明21 顧問
評議員	越川 志穂	損害保険ジャパン日本興亜株式会社 CSR 室長
評議員	小林 料	東京電力株式会社 元顧問
評議員	杉崎 重光	ゴールドマン・サックス証券株式会社 副会長
評議員	末吉 理花	エンカル協会 代表理事
評議員	高村 ゆかり	東京大学未来ビジョン研究センター 教授
評議員	中野 悦子	オイスカ理事長
評議員	三橋 規宏	千葉商科大学 名誉教授
評議員	安田 喜憲	ふじのくに地球環境史ミュージアム館長
評議員	涌井 洋治	公益財団法人アフィニス文化財団理事長
評議員	鷺谷 いづみ	中央大学理工学部 教授
認定委員	阿部 治	立教大学 教授
認定委員	市川 博也	国際教養大学名誉教授
認定委員	西脇 芳和	公益財団法人SOMPO環境財団専務理事
認定委員	原 剛	早稲田大学環境塾 塾長、元早稲田大学大学院 教授
認定委員	福井 光彦	青森大学 客員教授
選考委員	大塚 直	早稲田大学 教授
選考委員	西脇 芳和	公益財団法人SOMPO環境財団専務理事
選考委員	福渡 潔	SOMPO リスクマネジメント株式会社リスクマネジメント事業本部
選考委員	諸富 徹	京都大学大学院 教授

2. 職員等に関する事項

2020年3月31日現在の従業員は次の通りです。

区分	氏名	就業年月日	備考
事務局長	佐藤 孝治	2016年4月1日	損害保険ジャパン日本興亜(株)より出向
事務局次長	長沼 雄彦	2019年4月1日	損害保険ジャパン日本興亜(株)より出向
職員	齋藤 寛子	2017年4月1日	公益財団法人SOMPO環境財団職員

3. 役員会等に関する事項

①理事会の開催

開催日	会議事項	結果
2019年5月29日 第1回通常理事会	第1号議案：2018年度事業報告及び決算承認の件 第2号議案：財団名称変更及びそれに伴う定款等の変更の件 第3号議案：定時評議員会開催の件 第4号議案：認定委員選任の件 第5号議案：選考委員選任の件 第6号議案：理事長・専務理事の職務執行状況の件	全員一致で承認可決 全員一致で承認可決 全員一致で承認可決 全員一致で承認可決 全員一致で承認可決 全員了承
2019年6月21日 第1回臨時理事会	第1号議案：専務理事の選定の件 第2号議案：役員報酬の件 第3号議案：財団名称の変更に伴う諸規定等の改定の件	全員一致で承認可決 全員一致で承認可決 全員一致で承認可決
(理事会の決議があったものとみなされた日) 2020年3月14日 第2回通常理事会 (定款第43条に定められた理事会の決議の省略方法による)	第1号議案：2019年度事業経過報告の件 第2号議案：理事長・専務理事の職務執行状況の件 第3号議案：2020年度事業計画および収支予算の件	報告 報告 全員一致で承認可決

②評議員会の開催

開催日	会議事項	結果
2019年6月21日定時評議員会	第1号議案：2018年度事業報告の件 第2号議案：2018年度決算承認の件 第3号議案：2019年度事業計画および収支予算の件 第4号議案：財団の名称変更及びそれに伴う定款等の変更の件 第5号議案：評議員退任の件 第6号議案：評議員選任の件 第7号議案：任期満了に伴う評議員選任の件 第8号議案：理事退任の件 第9号議案：理事選任の件 第10号議案：役員退職慰労金支払いの件	全員了承 全員一致で承認可決 全員了承 全員一致で承認可決 全員了承 全員一致で承認可決 全員一致で承認可決 全員了承 全員一致で承認可決 全員了承

4. 許可、認可および承認に関する事項

該当はありません。

5. 寄付金等に関する事項

寄付の目的	寄付者	金額
財団の運用財産として	損保ジャパン日本興亜	50,000,000 円
財団の運用財産として	SOMPO ちきゅう倶楽部社会 貢献ファンド (SOMPO グループ)	5,000,000 円
財団の運用財産として	法人	3,200,000 円
財団の運用財産として	個人	2,141,000 円

6. 主務官庁指示に関する事項

該当はありません。

7. その他の重要事項

該当はありません。

2019年度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので作成しておりません。